

経済学部中国語教育に関する一考察（三）

竹 中 佐英子

1. テーマ選定理由

東洋大学（以下「東洋」）は現在、グローバル人材を育成するため、▽哲学教育▽キャリア教育▽国際化——の3本を教育の柱としており、中でも経済学部（以下「経済」）国際経済学科（以下「国経」）では国際化の実現に寄与するため、語学教育に力を入れている。その表れとして、2012年度以降国経入学者のカリキュラムでは、1年生春学期・秋学期、2年生春学期の3セメスターにわたり、初習外国語であるドイツ語、フランス語、中国語のうち、いずれか1カ国語を選択必修としている。

1, 2年生用中国語科目は、発音や会話を中心に学ぶ「中国語Ⅰ（総合）」（以下「中Ⅰ総」）「中国語Ⅱ（総合）」（以下「中Ⅱ総」）と、文法を中心に学ぶ「中国語Ⅰ（文法）」（以下「中Ⅰ文」）「中国語Ⅱ（文法）」（以下「中Ⅱ文」）の4科目があり、それぞれ4～5つのコース（クラス）に分かれて授業を行っている。国経は2年生春学期迄上記4科目全て必修であるが、2年生秋学期は英語と初習外国語の中から2科目選択必修となる。

東洋国経が標榜する語学力の育成を実現するため、筆者は上記4科目の履修者に対して中国語検定試験（以下「中検」）を受験するよう、勧めている。中検とは、1980年代～日本中国語検定協会（以下「協会」）が主催している、中国語の能力を測る試験であり、中国語版英検とも言われている。協会の合格基準によると、最低レベルの準4級は大学の初習外国語第一年度半期終了、その1つ上のレベルの4級は第一年度全部終了、さらにその1つ上のレベルの3級は第二年度全部終了で対応することができる。幅広い教養を身に付けるべき大学教育の中で、特定の試験に照準を合わせて学ぶことには批判的な意見もある。しかし、中国に留学している学習者と違い、国経の中国語履修者には学んだ中国語を使う場が極めて少なく、学習意欲を維持することが難しい。このような状況の下、中検に合格すれば、自身の中国語力が客観的にわかり、学習成果を実感することができるし、更なる上のグレードを目指す学習意欲にもつながる。また、中国へ進出している日本企業の中には中検合格者を積極的に採用するところもある。3級合格者なら、空港でクライアントを出迎え、車の中で雑談し、一緒に食事をし、商談が始まる前に交流を深めておく、くらいのことはできるから

だ。最近、東洋経済では初習外国語検定試験の受験者に対して、その検定料を図書カードで支給するという制度もできた。そこで筆者は授業中、折に触れて「英語は誰でも勉強しているが、中国語にみっちり取り組んでいる日本人は非常に少ない」「中国語非主専攻の学生が3級に合格していれば、必ず就活に有利になる」という事実を伝え、履修者が中検を受験するよう、仕向けている。

本稿は、まず中検について詳細に紹介し、次に東洋国経中国語履修者の中検受験状況やアンケート調査の結果を分析し、履修者の中検に対する認識を分析した上で、中国語教育法、カリキュラムなどに対して提言を行う。

2. 中検紹介

本章では、中検準4級、4級、3級について紹介する。

2.1. 中検準4級紹介

本節では、中検準4級について紹介する。

協会HPによると、中検準4級合格の認定基準は、「最低レベル学習を進めていく上での基礎的知識を身につけていること。学習時間60～120時間。一般大学の第二外国語における第一年度前期修了、高等学校における第一年度通年履修、中国語専門学校・講習会などにおいて半年以上の学習程度。基礎単語約500語（簡体字¹⁾を正しく書けること）、ピンイン（表音ローマ字²⁾の読み方と綴り方、単文の基本文型、簡単な日常挨拶語約50～80を習得していること」となっている。

試験時間は60分間、最初に約30分間のリスニング試験があり、続いて筆記試験を行う。満点はリスニングと筆記を合わせて100点、合格基準点は60点以上である。受験者の平均点は70点前後、合格率は70～80%である。

リスニング試験は5種類5題ずつ、全問マークシートによる選択式で解答する。問1-1、2（資料1、2）はピンイン表記、問1-3（資料3）は中国語の単語、問2-1（資料4）は中国語のフレーズ、問2-2（資料5）は中国語の挨拶表現が、実際どのような発音で言われるのか、を問う設問である。

1) 中国語を記録する記号は漢字であるが、中国大陸はその画数を減らした「簡体字」を正書法としている。

2) 中国語の漢字音を表すローマ字表記法を「ピンイン」という。1958年、中国政府が制定した。例えば中国語で時刻の「…時」を意味する語は“点”であり、ピンインでは“dian”と表記、「ディエン」のように読む。現在出版されている中国語の教材や辞書は全て、中国語の漢字音をピンインで表記しており、これを習得しておかないと、教材を音読することも、辞書を引くこともできず、中国語学習に大きな支障をきたす。

【資料1】 これから読む(1)～(5)の中国語と一致するものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回中検準4級)

(1) ①qí ②jí ③qū ④jú

【資料2】 (6)～(10)のピンイン表記と一致するものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回中検準4級)

(6)shǒujī ① ② ③ ④

【資料3】 (11)～(15)の日本語を中国語で言い表す場合、最も適当なものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回中検準4級)

(11)昨日 ① ② ③ ④

【資料4】 (1)～(5)の日本語を中国語で言い表す場合、最も適当なものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回中検準4級)

(1)15分間 ① ② ③ ④

【資料5】 (6)～(10)の日本語を中国語で言い表す場合、最も適当なものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回中検準4級)

(6)道を尋ねるとき ① ② ③ ④

筆記試験は4種類5題ずつ、マークシートによる選択式と記述式で解答する。問3-1(資料6)は単語のピンイン表記を問う設問である。日本語と同型または似た型で、全く発音の異なる語がよく出題される。問3-2(資料7)は適語補充、問3-3(資料8)は語順整序で、中国語の語彙の使い方や正しい語順を習得しているか、を問う。問4(資料9)は記述式の日文中訳で、日本漢字と微妙に形の違う簡体字(例えば資料9「難しい」は簡体字で“难”と書く)がよく出題される。採点には虫眼鏡が使われ、簡体字の止め、払い、突き出しなど、細部まで厳しく見る。

【資料6】 (1)～(5)の中国語の正しいピンイン表記を、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回準4級)

(5)学校 ①xièxiào ②xuèxiào ③xiéxiào ④xuéxiào

【資料7】 (6)～(10)の日本語の意味になるように空欄を埋めるとき、最も適当なものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回中検準4級)

(8)この近くにスーパーはありますか。

这附近 [] 超市吗? ①在 ②有 ③去 ④是

【資料8】 (11)～(15)の日本語の意味に合う中国語を、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回準4級)

(15)本屋はレストランの左側にあります。

- ①书店の左边儿在饭馆。
- ②书店在饭馆的左边儿。
- ③饭馆的左边儿在书店。
- ④饭馆在书店的左边儿。

【資料9】 (1)～(5)の日本語を中国語に訳したとき、下線部の日本語に当たる中国語を漢字(簡体字)で解答欄に書きなさい。漢字は崩したり略したりせずに書くこと。(20点) (第81回準4級)

(2)a. 発音が難しい。

2.2. 中検4級紹介

本節では、中検4級について紹介する。

協会HPによると、中検4級合格の認定基準は、「平易な中国語を聞き、話すことができること。学習時間120～200時間。一般大学の第二外国語における第一年度履修程度。単語の意味、漢字のピンイン(表音ローマ字)への表記がえ、ピンインの漢字への表記がえ、常用語500～1,000による中国語単文の日本語訳と日本語の中国語訳ができる」となっている。

試験時間は100分間、最初に約30分間のリスニング試験があり、続いて筆記試験を行う。満点はリスニングと筆記それぞれ100点、合格基準点はリスニングと筆記それぞれ60点以上であり、リスニング、筆記共に合格基準点に達していないと合格できない。受験者の平均点はリスニングが50～60点、筆記が60～65点、合格率は40～50%である。

リスニング試験は2種類10題ずつ、全問マークシートによる選択式で解答する。問1(資料10)は中国語の質問に対する適切な答え方、問2(資料11)は中国語の長文とそれに対する質問を聞き、内容に即した解答を選択する。問題用紙には番号が振られているだけで、中国語の質問、選択肢、文章は印刷されていない。

【資料10】 (1)～(10)の中国語の問いを聞き、答えとして最も適当なものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(50点) (第79回中検4級)

問(1)他家在哪儿?(彼の家はどこにありますか?)

- ①他家在大连。(彼の家は大连にあります。)
- ②那是我朋友的家。(あれは私の友達の家です。)
- ③他不在家。(彼は家にいません。)

④我们回家吧。（私たちは家へ帰りましょう。）

【資料11】 中国語を聞き、(1)~(10)の問いの答えとして最も適当なものを、それぞれ①~④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。（50点）（第79回中検4級）

我爸爸今年56岁，在一家汽车公司工作。他的英语很好，以前常去美国出差。有时候，还跟我和弟弟一起练习英语会话，在家里，爸爸是我们的“英语老师”。（以下問題文章略）

（私の父は今年56歳です、ある自動車会社で働いています。彼の英語は上手く、以前よくアメリカへ出張しに行っていました。時々、私や弟と一緒に英会話の練習をします、家では、父は私の英語の先生でした。）

問(6)我爸爸今年多大年纪？（私の父は今年何歳ですか？）

- ①59岁。(59歳) ②56岁。(56歳) ③65岁。(65歳) ④50岁。(50歳)

筆記試験は5種類、マークシートによる選択式と記述式で解答する。問1-1（資料12）は二音節単語の声調³⁾の組み合わせを問う。4級で出題される語彙数は1,000語と、準4級の2倍になるので、このように大量の単語（の声調）を問う出題が可能になるのである。問1-2は準4級の問3-1（資料6）と同じく、単語のピンイン表記を問う設問で、やはり準4級同様、日本語と同型または似た型で、全く発音の異なる語がよく出題される。問2（資料13）は準4級の問3-2（資料7）と同じく、適語補充だが、出題形式は準4級と異なり、日本語文がなくなるので、準4級より難易度が高いと言える。問3-1は準4級の問3-3（資料8）と同じ出題形式の語順整序、問3-2（資料14）は与えられた単語を日本語の意味に合うように並べ替える語順整序である。問4（資料15）は長文読解で、適語補充が5題と、本文の内容に合う中国語文の4択が1題で構成される。問5（資料16）は記述式の日文中訳で、準4級同様、日本漢字と微妙に形の違う簡体字（例えば資料16「動物園」は簡体字で“动物园”と書く）がよく出題される。採点では準4級同様、簡体字の書き方を細かく見られ、簡体字と日本漢字の混用は減点となる。

【資料12】 (1)~(5)の中国語の声調の組み合わせが他と異なるものを、それぞれ①~④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。（10点）（第81回中検4級）

- (1) ①睡觉 ②愉快 ③下课 ④附近

3) 中国語の音節についている高低の調子を「声調」という。声調は意味を区別する重要な働きを担っており、同じ子音“m”と母音“a”の組み合わせた音節“ma”でも、第一声“mā”なら「お母さん」、第二声“má”なら「麻」、第三声“mǎ”なら「馬」、第四声“mà”なら「罵る」と、全て意味が異なる。

【資料13】 (1)~(10)の中国語の空欄を埋めるのに最も適当なものを、それぞれ①~④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(20点) (第81回中検4級)

(1)车站离这儿不远，我们走 [] 去吧。 ①了 ②在 ③的 ④着

【資料14】 (6)~(10)の日本語の意味になるように、それぞれ①~④を並べ替えたとき、[] 内に入るものはどれか、その番号を解答欄にマークしなさい。(10点) (第81回中検4級)

(6)私は飛行機に2回乗ったことがあります。

我 _____ [] _____。

①飞机 ②两次 ③过 ④坐

【資料15】 次の文章を読み、(1)~(6)の問いの答えとして最も適当なものを、それぞれ①~④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(20点) (第81回中検4級)

我每天下班很晚，回家的时候，六岁的儿子已经睡了。今天儿子没有睡觉，(1)等我回来。(以下問題文章略)

(私は毎日仕事が終わるのが遅く、家に帰った時、6歳の息子はもう寝ています。今日息子は寝ておらず、まだ私が帰って来るのを待っていました。)

(1)空欄(1)を埋めるのに適当なものは、次のどれか。

①着 ②在 ③还 ④刚

(6)本文の内容に合うものは、次のどれか。

①儿子想借钱和父亲去餐厅吃饭。(息子はお金を借りて父と食事をしに行きたい。)

②父亲想借钱和儿子一起玩儿。(父はお金を借りて息子と一緒に遊びたい。)

③父亲打算今天和孩子一起吃晚饭。(父は今日子どもと一緒に晩ご飯を食べるつもりだ。)

④儿子想明天和父亲一起吃晚饭。(息子は明日父と一緒に晩ご飯を食べるつもりだ。)

【資料16】 (1)~(5)の日本語を中国語に訳し、漢字(簡体字)で解答欄に書きなさい。漢字は崩したり略したりせず書くこと。(20点) (第81回4級)

(3)私は来週の日曜日に動物園へ行きます。

2.3. 中検3級紹介

本節では、中検3級について紹介する。

協会HPによると、中検3級合格の認定基準は、「基本的な文章を読み、書くことができること。簡単な日常会話ができること。学習時間200~300時間。一般大学の第二外国語における第二年度履修程度。単語の意味、漢字のピンイン(表音ローマ字)への表記がえ、ピンインの漢字への表記がえ、常用語1,000~2,000による中国語複文の日本語訳と日本語の中国語訳ができる」となっている。

試験時間は100分間、最初に約30分間のリスニング試験があり、続いて筆記試験を行う。満点は

リスニングと筆記それぞれ100点、合格基準点はリスニングと筆記それぞれ65点以上であり、リスニング、筆記共に合格基準点に達していないと合格できない。受験者の平均点はリスニングが50～60点、筆記が55～65点、合格率は30～40%である。

リスニング試験は3種類、全問マークシートによる選択式で解答する。問1-1は4級の問1（資料10）同様、中国語の質問に対する適切な答え方を選択する。問1-2（資料17）は、AさんとBさんの対話を受けたAさんの質問に対する適切な答え方を選択する。問2は4級の問2（資料11）同様、中国語の長文の内容に合った答えを選択する。問題用紙には番号が振られているだけで、中国語の問い、選択肢、文章は印刷されていない。

【資料17】 (6)～(10)のAとBの対話を聞き、Bの発話に続くAのことばとして最も適当なものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。(20点) (第79回中検3級)

(6)A：请问，现在一万日元换多少人民币？（お尋ねします、今日本円の1万円は人民元に両替すると幾らですか？）

B：一万日元换789元。（日本円1万円は789元です。）

A：①那我换三万日元吧。（では私は日本円3万円を両替します。）

②789元太贵了，500元怎么样？（789元は高すぎます、500元でどうですか？）

③是吗？那我马上回去。（そうなんですか？では私はすぐに帰ります。）

④人民医院在北京路798号。（人民病院は北京路798号にあります。）

筆記試験は5種類、マークシートによる選択式と記述式で解答する。問1～5の出題形式は4級と全く同じであるが（詳細は第2章第2節参照）、3級で出題される語彙数は2,000語と、4級の2倍になるので、問1の二音節単語の声調組み合わせ、ピンイン表記、問2の適語補充、問3の語順整序、問4の長文読解、問5の記述式の日文中訳、全ての設問において難易度がかなり高くなる。

3. 調査方法の紹介

3.1. 調査対象

本稿の調査対象は東洋経済1年生用中国語科目「中Ⅰ文」履修者、2年生用中国語科目「中Ⅱ総」「中Ⅱ文」履修者である。「コース」とはクラス分けのことであり、国経2年生で、1年生秋学期末に実施した中国語統一試験の高得点者は「中Ⅱ文」のインテンシブコース（以下「2年インテン」）で履修し、それ以外の国経1、2年生は教務が指定したコースで履修する。

表1は調査対象を履修科目毎、春学期定期試験の成績毎に内訳を示したものである。

表 1. 調査対象内訳（履修科目毎、成績毎）

履修科目	略称	合計	上位	中位	下位
	国経 1 年生	41人	11人	11人	19人
中国語 I（文法）・1 コース	1 年 1 コース	22人	6 人	6 人	10人
中国語 I（文法）・4 コース	1 年 4 コース	19人	5 人	5 人	9 人
履修科目	略称	合計	上位	中位	下位
	国経 2 年生	89人	31人	28人	30人
中国語 II（文法）・インテン	2 年インテン	20人	8 人	7 人	5 人
中国語 II（文法）・2 コース	2 年 2 コース	28人	10人	6人	12人
中国語 II（総合）・3 コース	2 年 3 コース	20人	6 人	8 人	6 人
中国語 II（文法）・4 コース	2 年 4 コース	21人	7 人	7 人	7 人

3. 2. アンケート調査実施方法

アンケート調査は2013年7月に記名式で行った。質問項目は中国語学習、経済学学習、課外生活など約50項目で、回答は選択肢から選択、あるいは自由に記述させ、回答は履修科目毎、成績毎に集計した。本稿では全結果のうち、分析に必要なもののみを開示している。

4. 調査結果とその分析

本章では、東洋国経の中国語履修者の中検受験状況、履修者に対して行ったアンケート調査の結果を分析しながら、中検や教育法に対する認識などを分析していく。

4. 1. 中検教育法紹介

本節では、筆者が東洋国経の中国語履修者に対して行った、中検合格を目標とした教育法について紹介する。

筆者は東洋の国際化に寄与し、学習者の意欲を高め、4年次に就活を有利に展開できるようにするため、履修者に対して中検受験を勧めている（詳細は第1章参照）。2013年度春学期、1年1・4コースでは中検準4級、2年インテン・2・3・4コースでは中検4級によく出題される語彙や文法項目を重点的に教える日文中訳教材（資料18）と、過去問を解く宿題（資料19）を、筆者自身が作成した。授業では、中検4級の過去問を全て日文中訳問題に転換して、履修者全員で解き、どのような語彙や語順が問われたか、を解説した。加えて、出題形式（適語補充、語順整序、日文中訳）も紹介し、特に4つの選択肢の中から最も適切な語を選ぶ適語補充問題の場合、他に挙げられた3つの選択肢が不正解となる理由も説明し、他の問題への応用力も育成するようにした。宿題のプリントには、問題文の簡体字全てにピンインを添え、自習しながら単語のピンイン表記が確認で

きるようにし、4級・3級で10点分の配点がある二音節声調の組み合わせを問う設問（資料12）と、準4級・4級・3級で10点分の配点がある単語のピンイン表記を問う設問（資料6）の対策になるよう、配慮した。

【資料18】 日文中訳教材

私は今日友達の家で晩ご飯を食べます。(80－4級択)

…で／に…を～する→介詞“在”＋場所＋動詞＋目的語

私は家でご飯を食べません。(67－4級中訳)

…で／に…を～しない→“不在 búzài”＋場所＋動詞＋目的語

“不”＋第4声→実際の発音は「第2声＋第4声」、声調符号も／＋\と表記

【資料19】 宿題

問. 以下の中国語の空欄を埋めるのに最も適当なものを、それぞれ選択肢の中から1つ選び、
[] 内に書き入れ、全文を日本語に訳しなさい。

1. 我 wǒ 今天 jīntiān [] 朋友 péngyou 家 jiā 吃 chī 晚饭 wǎnfàn。(80回4級)

【選択肢】 和 hé, 离 lí, 在 zài, 跟 gēn

日本語訳 _____

4.2. 中検受験状況

本節では、東洋経済の中国語履修者の中検受験状況について分析する。

表2、3、4は2年インテン・2・3・4コースの履修者のうち、第80回中検（2013年6月実施）準4級、4級、3級を受験した者のリスニング、筆記の得点を1人ずつ示したものである。2年2・3・4コースの受験者はそれぞれ1～2人ずつだったが、履修者を成績上位者だけに限定し、合格可能性の高い履修者が集結した2年インテンでは、「中検未受験者の定期試験の得点率が70%以下である場合、単位認定をしない」という評価基準を設け、全員に受験するよう仕向けたので、履修者20人中17人が受験した。

表2を見るに、国経2年生中国語履修者の第80回中検準4級受験者は7人、うち合格者は7人で、合格率は100%であった。しかも、第80回中検準4級全受験者（協会HPは1,591人と発表）の平均点が69.1点なのに対し、国経2年生全受験者の平均点は92点と、22.9点上回り、全員がかなりの余裕をもって合格することができた。ただし、準4級は毎回合格率が70～80%の高きに上る、非常に易しい出題なので、合格率100%、平均点92点は当然の結果であろう。

表 2. 第80回中検準4級受験状況

	合格率 合否	合計点 (200点満点)	リスニング (100点満点)	筆記 (100点満点)
合格基準点		60点		
全受験者平均	72.7%	69.1点	非公開	非公開
東洋国経平均	100%	92点	44点	48点
2年3コースA	合格	98点	50点	48点
2年インテンB	合格	96点	46点	50点
2年4コースC	合格	94点	44点	50点
2年インテンD	合格	92点	44点	48点
2年4コースE	合格	90点	42点	48点
2年インテンF	合格	88点	42点	46点
2年インテンG	合格	86点	40点	46点

表 3. 第80回中検4級受験状況

	合格率 合否	合計点 (200点満点)	リスニング (100点満点)	筆記 (100点満点)
合格基準点			60点	60点
全受験者平均	70.0%	非公開	71.0点	73.4点
東洋国経平均	100%	153.85点	70.35点	83.5点
2年インテンH	合格	175点	85点	90点
2年インテンI	合格	174点	80点	94点
2年インテンJ	合格	172点	85点	87点
2年インテンK	合格	166点	75点	91点
2年2コースL	合格	166点	75点	91点
2年インテンM	合格	155点	70点	85点
2年4コースN	合格	152点	65点	87点
2年インテンO	合格	150点	65点	85点
2年インテンP	合格	150点	70点	80点
2年インテンQ	合格	149点	60点	89点
2年インテンR	合格	148点	65点	83点
2年インテンS	合格	135点	65点	70点
2年4コースT	合格	133点	65点	68点
2年3コースU	合格	129点	60点	69点

表3を見るに、国経2年生中国語履修者の第80回中検4級受験者は14人、うち合格者は14人で、合格率は100%であった。4級の合格率は毎回40～50%程度で、決して準4級ほど易しい出題ではない。しかし、第80回中検4級の全受験者（協会HPは2,579人と発表）の合格率は70%の高さに達しており、第79回の48.9%、第78回の55.6%、第77回の40.9%と、最近3回の4級に比べて格段に高いことが分かる。故に、国経2年生中国語履修者の第80回中検4級合格率が100%に達した理由の1つは、試験自体の難易度の低下によるものであると言える。

表3からは、中検合格を目標とした教育法（詳細は第4章第1節参照）に一定の成果があったことが伺える。第80回中検4級全受験者の筆記平均点が73.4点なのに対し、国経2年生全受験者の平均点は83.5点と、10.1点も上回った。これは、筆者が中検4級筆記の過去問を中心に構成した日文中訳教材を作成し、よく出題される語彙や語順を重点的に教えると共に、出題形式や応用方法も紹介したこと、宿題で理解、記憶を定着させたこと、宿題のプリントでは簡体字だけでなくピンインも添えて、二音節声調の組み合わせや単語のピンイン表記といった、覚えておきさえすれば誰でも点が取れる設問（資料6、12）で確実に得点を取るよう指導したこと、などが功を奏したと考えられる。中検準4級、4級、3級では同一の単語、文法項目が繰り返し出題される傾向があるので、過去問を解くこと自体、受験対策になるのである。こういった教育上の工夫は今後も踏襲していく。

一方、表3からは改革が必要な点もはっきり見えてくる。第80回中検4級全受験者のリスニング平均点は71.0点なのに対し、国経2年生全受験者の平均点は70.35点と、0.65点下回り、しかも、国経2年生全受験者14人中、半数の7人はリスニングが60～65点と、合格基準点60点をかろうじて上回る程度の低きに留まった。この原因は、筆者が筆記の過去問には充分時間をかけて解説したものの、リスニングの過去問にはほとんど触れなかったことにある。楊惠元1996.p38は、「外国語が聞き取れないのは、蓄積した語彙量が少ないこと、文が長く、構造が複雑なこと、などに原因がある。特に1つの文の中に3つ以上知らない単語があると、文全体の意味を聞き取ることは非常に困難である」と指摘した上で、「まずは子音、母音、声調が似た単語の聞き分け、字数の少ない文の聞き取り、短文の聞き取りと、段階を分けた練習をするとリスニング力は確実に向上する」との実践結果を紹介している。今後はこういった先行研究を参考に、中検リスニング試験での得点確保に有効な教育法を模索していく。

表4を見るに、国経2年生中国語履修者の第80回中検3級受験者は3人、うち合格者は3人で、合格率は0%であった。この3人は皆、履修者を成績上位者に限定した2年インテンの中でも定期試験の成績が常に上位5位以内に入る者であるが、1人も合格することができなかった。この原因は、筆者の教育法が中検4級筆記試験で出題される語彙や文法項目を中心としたものであったことによる。3級で出題される語彙数は2,000語と、4級の2倍に上る。中には4級の知識で対応できる設問もあるが、3級だけに与えられる語彙や文法も少なくない。また、最近の3級合格率を見

表 4. 第80回中検 3級受験状況

	合格率 合否	合計点 (200点満点)	リスニング (100点満点)	筆記 (100点満点)
合格基準点			65点	65点
全受験者平均	31.4%	非公開	60.0点	62.9点
東洋国経平均	0%	110.3点	48点	62.3点
2年インテンV	不合格	138点	74点	64点
2年インテンW	不合格	117点	50点	67点
2年インテンX	不合格	76点	20点	56点

ると、第79回の34.6%、第78回の38.4%、第77回の33.1%と、4級の合格率を7.8%～17.2%下回り、4級との難易度の差は開きつつある。今後の教材作成、授業では3級の出題も網羅する必要がある。

4.3. 教育法に対する認識

筆者は2013年度春学期、国経1、2年生用中国語科目で、中検準4級、4級過去問を重点的に教える授業を行ったが（詳細は第4章第1節参照）、履修者はこの教育法をどう考えているのだろうか？本節では、中検受験を念頭に置いた教育法に対する、東洋国経の中国語履修者の認識について分析する。

表5は「授業中、中検の過去問や出題形式を紹介することがあって良いか」、表6は「中検に合格したいか」という設問に対して、「はい」と回答した学生を、学年毎、春学期定期試験の成績毎に示したものである。

表5. 授業中、中検の過去問や出題形式を紹介することがあって良いか（2択回答）

国経1年生		国経2年生	
成績上位（11人）	11人（100%）	成績上位（31人）	31人（100%）
成績中位（11人）	11人（100%）	成績中位（28人）	23人（82.1%）
成績下位（19人）	19人（100%）	成績下位（30人）	25人（83.3%）

表6. 中検に合格したいか（2択回答）

国経1年生		国経2年生	
成績上位（11人）	9人（81.8%）	成績上位（31人）	29人（93.5%）
成績中位（11人）	11人（100%）	成績中位（28人）	23人（82.1%）
成績下位（19人）	16人（84.2%）	成績下位（30人）	19人（63.3%）

まず、表5を見るに、中検合格を目標とした教育法は、国経1年生の成績上・中・下位者と2年生の成績上位者で100%、2年生の成績中・下位者で8割以上が肯定しており、大多数の支持を得ていると言える。次に、表6を見るに、中検に合格したいと考えている履修者は、国経1年生成績中位者で100%、2年生成績上位者で9割、2年生成績中位者と1年生成績上・下位者で8割以上と、大多数を占めるのに対し、2年生成績下位者だけは6割に留まっている。自由記述欄を見るに、1年生成績下位者の中には、「思ったより難しかったです、先生が教材を検定の過去問から出しているからか、すごく役に立っている気がするし、分かりやすかったです」「単位取得が難しい状態になったのがきっかけで、中国語検定に興味湧いてきました」「はじめはあまり興味なかったけど、習っていくうちに英語よりも好きになりました！4月からちゃんとやっておけばよかった。たぶん再履けど、2年生では3級合格できるようにがんばります」「検定に受かるようにがんばりたい」などと書いた者もいる。この調査が、国経1年生が中国語学習歴4カ月目、2年生が学習歴1年半の時点で行ったものであることを考慮すると、表6の調査結果は、学習歴が短い場合は、成績の良し悪しに関わらず、多くの履修者が中検合格願望を持っているのに対し、学習歴が1年を超えても成果が上がっていない履修者は、中検合格のメリットを訴えても、中検受験に興味を持たなくなることを示している。筆者は既に、中国語学習に対する興味、意欲は学習成果と正比例する、との考察結果を得ているが（詳細は竹中2012,p188参照）、今回の調査結果はそれを更に補強するものである。

4.4. カリキュラムに対する認識

2012年度以降国経入学の中国語履修者は、1年生春学期・秋学期、2年生春学期の3セメスターにわたって週2こま必修となっているが（詳細は第1章参照）、東洋国経の中国語教育のレベルは必ずしも高くはないため、「一般大学の第二外国語における第一年度履修程度」終了で対応できるとされる中検4級（詳細は第2章第2節参照）に、国経1年生終了時に合格することができる者は、ごくわずかな成績上位者に限られる⁴⁾。東洋国経の中国語の授業進度だと、中検4級に出題される語彙と文法項目、すなわち初級中国語を完全に学び終わるのは、2年生秋学期である。しかし、現行の国経のカリキュラムでは、2年生秋学期は英語と初習外国語の中から2科目選択必修となり（詳細は第1章参照）、8割の学生が英語を2科目履修するため、多くの中国語履修者は中途半端なところで学習が途絶えてしまう。では、国経の学生は現行の初習外国語の履修方法をどう考えているのだろうか？本節では、初習外国語のカリキュラムに対する、東洋国経の中国語履修者の認識に

4) 第79回中検4級（2013年3月実施）には、履修者を成績上位者だけに限定した国経1年生インテンから、定期試験の成績が常に上位5位以内に入る4人が受験したが、合格者は2人に留まった。

ついて分析する。

表7-1、2は「初習外国語はいつ迄必修であるのが良いか」という設問に対し、「1年生春学期迄」「1年生秋学期迄」「2年生春学期迄」「2年生秋学期迄」の4つの選択肢を立て、学生がどの選択肢を選んだかを、学年毎、春学期定期試験の成績毎に示したものである。

表7-1. 初習外国語はいつ迄必修であるのが良いか？（4択回答）

国経1年生	成績上位（11人）	成績中位（11人）	成績下位（19人）
1年生春学期迄	1人（9.09%）	1人（9.09%）	3人（15.8%）
1年生秋学期迄	4人（36.4%）	3人（27.3%）	4人（21.1%）
2年生春学期迄	1人（9.09%）	1人（9.09%）	3人（15.8%）
2年生秋学期迄	5人（45.5%）	6人（54.5%）	9人（47.4%）

表7-2. 初習外国語はいつ迄必修であるのが良いか？（4択回答）

国経2年生	成績上位（31人）	成績中位（28人）	成績下位（30人）
1年生春学期迄	2人（6.45%）	2人（7.14%）	6人（20%）
1年生秋学期迄	9人（29%）	12人（42.9%）	16人（53.3%）
2年生春学期迄	8人（25.8%）	7人（25%）	5人（16.7%）
2年生秋学期迄	12人（38.7%）	7人（25%）	3人（10%）

表7-1、2を見るに、1年生成績上・中・下位者の約半数と、2年生成績上位者の4割弱が、「初習外国語は2年生秋学期迄必修であるのが良い」と考えているのに対し、2年生成績中位者の4割強、成績下位者の5割強が「初習外国語の必修は1年生秋学期迄が良い」と考えている。自由記述欄を見るに、2年生成績中・下位者は、「この1年半は本当につらかった」「つかれました」「英語をならうより全然難しいと思った」「興味はあるが、ヤル気がなかなか出なかった」「自分には向いていないと思う」と書き、1年半選択必修だった中国語学習が苦痛だったことを訴えている。この調査が、国経1年生が中国語学習歴4カ月目、2年生が学習歴1年半の時点で行ったものであることを鑑みるに、表7-1、2の調査結果から、学習歴が短く、成果がはっきりしていないうちは、約半数の履修者が初習外国語は2年間必修でも良いだろう、と思っているが、1年半の学習を経ても成果が上がらないと、初習外国語学習は1年間だけで終わって欲しい、と考え方が変化することを示している。

初習外国語は、新出事項を理解、記憶する、既習事項を活用して未習事項を類推する、言語の違いによる異なった思考法を体感する、など、高等教育に必要な基礎学力をまんべんなく鍛えることができる科目である。故に、早慶MARCHなど、所謂「上位校」と言われる大学ほど、初習外国語

を重視し、主専攻科目に関わらず、2年間週2コマ選択必修としている。加えて、初習外国語の原書講読科目を開設し、文字のリテラシーを向上させ、専門科目教育の礎としている大学もある。今回の調査結果から、国経の中国語履修者も学習当初は「2年間必修で良い」と考えている者が半数を超えていることがわかった。初習外国語教員は履修者の入学当初の覚悟をしっかりと受け止め、履修者全員が一定の成果を上げるよう指導し、初習外国語を2年生秋学期迄必修にするよう、カリキュラム改革を推し進めるべきである。

5. 分析結果の総括、提言

以上、東洋国経の中国語履修者の中検受験状況、中検合格を目標とした教育法、初習外国語のカリキュラムに対する認識を分析した結果、以下の3つの結果を得た。

(1)中検の頻出単語や文法項目を重点的に教える教育法は、筆記試験の得点向上に一定の効果があった。一方、受験対策をしなかったリスニングは得点が伸び悩んだ。

(2)中国語履修者は誰も、学習開始当初は中検に合格したいという願望を持って取り組んでいるが、学習成果が上がらないと、中検に興味を示さなくなる。

(3)東洋国経の中国語履修者は、学習歴が浅いうちは初習外国語が2年生秋学期迄必修でも良いと考えているが、学習が進んでも成果の上がらなかった者は1年間で終わって欲しいと、考え方が変化する。

以上の分析結果を踏まえ、中国語教育法、カリキュラムに対して、以下の3点を提言する。

(1)履修者が中検リスニングで得点を取れる教育法を開発する。

(2)履修者が学習成果の向上を実感できる教育法を開発する。成果が上がれば、中検受験率、合格率、中国語学習に対する興味が向上し、東洋の国際化に寄与することができる。

(3)初習外国語のカリキュラムを改定し、2年生秋学期迄週2コマ選択必修とする。半数の履修者は、初習外国語は2年間学んでも良いとの覚悟を持って臨んでいる。この覚悟を活かすには、初習外国語教員が履修者に学習成果を体感させる教育を行うことが不可欠である。

【参考資料、参考文献】

一般財団法人日本中国語検定協会HP <http://www.chuken.gr.jp>

杨惠元1996.《汉语听力说话教学法》，北京语言文化大学出版社

竹中佐英子2012.「経済学部の中国語教育に関する一考察」、『経済論集』第37巻第2号、p177～p191